

硬膜下膿瘍は頭蓋内膿瘍の 1/4~1/5 の頻度で見られるが、大脳半球間裂部硬膜下膿瘍の報告は CT 時代になっても稀である。最近我々は、大脳半球間裂部に局限する硬膜下膿瘍と小脳内膿瘍の合併例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。症例：13歳男子。発熱・頭痛にて発症し、扁桃腺炎の診断で治療中、左下肢の脱力を生じた。髄液は好中球優位の細胞増多をみとめ、CT では大脳半球間裂部のうすい低吸収域をみとめた。抗生剤投与にもかかわらず症状は軽快せず、痙攣が頻発し、意識障害および両側外転神経麻痺が加わった。発症19日目の CT で、大脳半球間裂部から左テント上にかけて低吸収域が著明に増大しており、周囲の造影剤増強効果のみとめた。又右テント下にも周囲が増強される低吸収域をみとめた。手術は、左後頭傍矢状部と右後頭下に小開頭を加えて排膿した。前者は厚く丈夫な被膜をもつ硬膜下膿瘍であり 125ml、後者は小脳内の膿瘍で 10ml の淡黄色、無臭の粘稠性膿を得た。約 1 ヶ月で症状はほぼ軽快し退院した。膿の培養からは *corynebacterium* が検出された。

B-3) Lymphocytic hypophysitis の 1 例

蕎麦田英治・引地 基文 (弘前大学)  
相馬 正始・岩淵 隆 (脳神経外科)

Lymphocytic hypophysitis は、下垂体前葉におけるリンパ球の慢性浸潤を特徴とする炎症性疾患である。報告例は渉猟し得た範囲で31例と極めて少なく、全例が女性である。妊娠や分娩との関連が強いが、6例は無関係に発症している。病因としては自己免疫機構の関与が考えられている。今回我々は、組織学的に本疾患と考えられた一例を経験した。症例は24才女性、18才頃より体重増加、皮膚の色素沈着、多毛傾向を認めた。初潮は12才、最近一年間は amenorrhea が続いている。妊娠、分娩の既往はない。口渇、多飲多尿、頭痛を訴えて入院。身長 145.5cm、体重 87kg、血圧は 130/80mmHg。尿糖 (+)。内分泌学的には下垂体機能低下を認め、CT で鞍上部伸展を示すトルコ鞍部腫瘍 (CE+) を認めた。経蝶形骨洞的に摘出を行った。腫瘍は黄灰色で硬く、組織学的所見では腫瘍性的変化はは無く、濾胞様構造を形成しつつ慢性に著明なリンパ球浸潤がみられ、少数の形質細胞や好酸球を混じていた。下垂体実質の細胞成分は著明に減少していた。以上の所見から lymphocytic hypophysitis が考えられ、現在自己抗体について検索中である。

B-4) 長期抗生物質投与中においてみられた難治性大腸炎について

小助川 治・大滝 雅文 (札幌医科大学)  
森本 繁文・上出 廷治 (脳神経外科)  
端 和夫

木村 弘通・氏家 良人 (札幌医科大学)  
集中治療部 (ICU)

偽膜性大腸炎をはじめとする抗生物質関連大腸炎は重症患者に発生する場合は予後不良で、予防あるいは初期治療が極めて重要となる。

1987年5月より1988年2月まで札幌医科大学脳神経外科にて抗生物質の投与が原因となった抗生物質関連大腸炎5例を経験した。患者はいずれも男性で、35才より70才まで分布している。症例のうち3例は内視鏡所見により偽膜性大腸炎と確定診断できた。他の2例も、偽膜性大腸炎と確定診断は得られなかったものの、腹部膨満・緑色泥状便・粘血便・粘液便などの臨床所見から抗生物質関連大腸炎と考えられた。5例中3例は、敗血症を併発し死亡した。

抗生物質投与中腹部膨満を放置すると、偽膜性大腸炎から敗血症を併発し多臓器不全の病態をとり、極めて予後不良の経過をたどることがある。その対策としては早期診断・初期治療が重要である。我々の5例とともに本大学 ICU で経験された腹部膨満症例39例とを検討し、早期臨床症状の特徴を明らかにするとともに、治療法について若干の知見を得たので報告する。

B-5) 棘波・鋭波の合成ダイナミック・トポグラフィ

三浦 俊一・米谷 元裕 (秋田大学)  
後藤 恒夫・古和田正悦 (脳神経外科)

脳波・誘発電位の研究に各種のトポグラフィが臨床応用されて脳機能の解明に貢献しており、てんかん脳波においても定量的解析が行われて2次元または3次元表示が試みられるようになったが、解析法や処理技術でなお検討すべきことが少なくない。今回、棘波および鋭波の形態上の経時的变化を等電図とともに表示する合成ダイナミック・トポグラフィを作成し、主として部分てんかん例に応用しているので報告する。

波形の形態評価は①上昇スロープと下降スロープの比、②上昇スロープ後半と下降スロープ前半の比、③上昇スロープの持続時間と下降スロープの持続時間の比を求める3方法で行い、それぞれの測定結果を比較検討して相関を求めた。①と③の間で高い相関が得られたので、主に③の測定結果を統計処理し、形態評価のクライテリア